

東京都食品ロス削減パートナーシップ会議

(第10回)

会議録

令和2年11月6日

東京都環境局資源循環推進部

(午後 2時01分 開会)

○渡辺座長 皆様、こんにちは。聞こえますでしょうか。

定刻となりましたので、ただいまから東京都食品ロス削減パートナーシップ会議（第10回）を開会いたします。

委員の皆様におかれましては、お忙しい中、御出席くださり、ありがとうございます。

それでは、本日の出席状況について事務局から御報告をお願いいたします。

○茂野計画担当課長 事務局でございます。資源循環計画担当課長の茂野でございます。本日は、どうぞよろしくをお願いいたします。

それでは、本日の出席状況について、御報告いたします。本会議における委員総数は、20名で、ただいま15名の方に御出席をいただいております。委員総数の過半数に達していることを御報告申し上げます。

本日は辰巳委員、三田委員、山田委員におかれましては御欠席でございまして、田中委員と柿野委員が少し遅れているようでございます。

また、本日は環境局長の栗岡が出席しておりますので、お知らせをいたします。

○栗岡環境局長 環境局長の栗岡でございます。どうもはじめまして。本日はどうかよろしくお願い申し上げます。

○茂野計画担当課長 前回に続きまして、今回の会議もWEB開催となりますので、まず、委員の皆様にご発言される際の手順を御説明いたします。

会議中は通信負荷を下げるために、マイク及びビデオをOFFにしてくださいませよう、お願い申し上げます。

また、御発言をする際には、マイクボタン、それからビデオボタンをクリックして、それぞれボタンがONに変わったのを確認してから御発言をお願いいたします。なお、発言終了後は、再度マイクボタン、それからビデオボタンをクリックして、それぞれボタンがOFFになったことを御確認くださるようお願い申し上げます。

また、御発言に当たっては、まずチャット機能を使っていただきまして、「お名前」と「発言希望」と入力して、送信してください。進行側で、発言希望の方を確認して、順番に御指名をさせていただきます。

また、そのほか、事務局宛てに連絡事項がございましたら、チャット機能にてお知らせください。これから、チャット機能の確認のため、事務局よりテスト用にチャットでメッセージを送付いたしますので御確認ください。

事務局からは以上でございます。

○渡辺座長 それでは、これより議事に移ります。

本日は、今までパートナーシップ会議での議論を取りまとめた提言について議論をしていただき、皆様の御了解をいただくところまで進めたいと思います。御了解をいただけたら、局長に「食品ロス削減に向けた提言」としてお渡しをするというところまで進めていきます。それでは、事務局より資料の説明をお願いいたします。

○茂野計画担当課長 それでは、資料3「食品ロス削減に向けた提言」、こちらのほうは画面でも共有をさせていただきますけれども、こちらのほうで説明をさせていただきます。

前回、各委員の皆様からいただいた意見を踏まえて反映した部分を、主に御説明をい

たします。

まず2ページ目になります。「はじめに」のところでございます。

前回、この3年間でも、コロナになってからでも食品ロスだけではないんでしょうけれども、サステナブルな思考の高まりであったりとか、またパーツパーツは何をやっていくのかというのは分かるんですけども、逆に何をやっているのかが見えづらくなっているのではないかとといった御意見をいただいております、「はじめに」のところなんですけれども、食品ロス削減が、改めて、サステナブルな社会を目指すSDGsのゴールであったり、目標であったりとか、また国の食ロス法の策定の動きだけではなくて、昨年12月に策定しました都の「ゼロエミッション東京戦略」で食ロス対策を資源循環分野の主要な取組としておりますので、改めてその旨をこちらのほうに追記してございます。あわせて、イラストも半減のマークとしても追記をさせていただきます。

次に5ページ目になります。こちらは前回の会議から加えました新型コロナウイルス感染症対策による影響のパートになります。(1)のタイトルにつきまして、前回の会議で見出しの工夫をといた御意見をいただきました。前回、社会経済情勢の変化する中のフードサプライチェーンとの表記でございまして、コロナによる影響として何の確立が求められているのかとか、何が影響によって必要なのかといったところで、分かりやすくといた御意見をいただいております。

今、先進技術を活用したフードサプライチェーンの強靱化といったタイトルにしてございます。あわせて、コロナ禍においても、食のインフラであるサプライチェーンが食品を供給する重要な役割を果たしたこととか、また需給バランスが大きく変化した中、その対応として、サプライチェーンの機能を高めていくデジタル技術、例えばICT等の活用による需要予測の導入ですとか、包装・冷凍技術を活用することで、保存期間の延長など、こういった記載の整理ですとか、また、できるところからにはなりますが、食ロス削減対策に有効な取組事例などの共有化も重要であるといったところで、事務局側で文言の修正をさせていただきます。

続いて6ページ目の(2)安全・安心志向の高まりのパートでございまして。

前回コロナ関連に係る現状の分析として、都内に特化したデータがないでしょうかという御意見をいただきました。前回その場で、この5月、6月の23区内のみとなりますけれども、家庭系のごみ量の約1割が増加したこととか、一方で事業系のオフィスから排出されるごみが約4割ほど減少しているデータにつきまして、御紹介をさせていただきます。直接食品ロスと結びつくとは言いえないかもしれませんが、コロナによる影響が直接ごみ量にも影響しており、働き方ですとか、暮らし方の変化がうかがえるといった旨の表記をグラフと併せてさせていただきます。

また、コロナにより環境変化という部分で、廃プラスチックの問題の御意見も頂戴してございまして、その点も併せて、最後のところに記載をさせていただきます。

それから、次に8ページ目になります。(3)社会貢献意識の高まりの部分でございまして。

こちらについては、コロナで食を通じた助け合いなどの社会貢献意識の高まりの中で、事例としてフードバンクの記載が多かったのですが、フードバンクに加え、子ども食堂やそれを支える地域の事業者、あるいは自治体も活動しているといった御意見をいただ

いてございます。その旨を追記させていただいております。

また、2030年を見据えた提言ということで、ポストコロナ、先を見据えた表現、それから子供の福祉や教育といった表現もあったほうがよいといった御意見もいただいておりますので、その点につきましても加えてございます。

少し飛びまして、次に14ページ目となっております。事業者編の提言2のパートでございます。

食品ロス削減に係る需要予測のところでございますが、ちょうど先月、今年も東京都のほうでICTを活用した先進的な食品ロス削減のモデル事業を公募しまして、事業者と共同で事業を開始するところでございます。様々なビックデータ等を活用して、AIも活用しながら需要を予測するというところで、小売ですとか、卸売等の在庫量の適正化を図るという実証事業を進めているということでもあり、サプライチェーン全体の食品ロス削減に効果のあるシステムの開発も進んでいるということで、事務局側から時点修正をさせていただいております。

次に18ページ目になります。上段の囲いになりますけれども、こちらはPOSデータの共有化のところでございます。前回の会議でPOSデータの共有化やフォーマットの規格の御意見をいただきました。なかなかすぐにはというところはあるんですけども、御意見として、POSデータの利用が共有しやすいように標準化されていくことが望ましいといった形で、御意見の中で追記をさせていただいております。

さらに、その下のところでございます。④先進的技術の導入のところ、画像認証といった新しいデータの追記と併せて、19ページのほうにも入ってってしまうんですけども、ICT以外にも包装・冷凍技術などの食品の鮮度の保持ですとか、保存期間の長期化なども食品ロスにつながるものといったところで、事務局側でこちらについては追記をさせていただいております。

それと、食品廃棄についても、ただリサイクルをしていくというだけではなく、食へと循環することが大切との御意見も頂戴してございますので、食品のリサイクルループも併せて、ここで記載をさせていただいております。

それから、22ページのところになります。

こちらは提言3のパートでございます。商慣習等の見直しのところとなりまして、前回の会議で、この中ではさらなる物流の効率化が求められていると。この部分につきましては、今回労働力不足といった文言を加えてございます。

こちらにつきましては、コロナがあったから効率化を求められているのではなく、もともとその前から、この物流のところにつきましては、国のほうでも物流の長時間労働ですとか、人手不足の問題などから、合理化などの検討が進められていますというところの中で、またコロナの問題も加わって、それを取り巻く環境については、引き続き効率化が求められているといった趣旨で記載をさせていただいております。

それから、25ページになります。

賢い消費選択のパートでございます。こちらにつきましては外食の小盛りメニューだけでなく、小売も少量パックの提供を実施しているという御意見もいただいておりますので、追記をさせていただいております。

それから、29ページになります。

家庭における削減行動の習慣化のところでございます。このパートは、買物前のストックチェックや余った食材のリメイクなどの工夫が格好いいなどの食品ロス削減に向けた行動の習慣化の重要性、これはコロナにおいても一層重要という御意見をいただいております。前回の会議では、コロナでも同じであるというような表現になっておりましたけれども、一層重要にといったところと、あと家族の家事への参加も増えるといった中で、楽しみながら習慣化を進めることも重要といった記載も、御意見をいただいておりますので、そちらについても追記をしております。

また下のほうで、ごみ出しのルールについて、前回、複数の委員から、感染防止の観点から適切な処理、方法によってごみ出しをすることが必要だという御意見をいただいておりますので、そちらについても記載をさせていただいております。

それから、続きまして37ページになりまして、自治体等の連携のパートになります。最初の冒頭の6ページの安全・安心志向の高まりでも追記しておりますけれども、フードバンクだけではなくて、子ども食堂に対しても事業者と連携をしながら取組を進める自治体の記載をこちらでもしているところがございます。また、優れた取組を実施している事例を自治体間で共有することが大事であるといった御意見をいただいておりますので、その旨37、38と記載をしております。

39ページ、最後の「おわりに」のところでございますけれども、食品ロス削減への取組について、コロナ禍で、例えばデジタル化やテレワークのように一気に取組が進んだ分野があるように、食品ロスについても、できるものを段階的に実施し、少し書き分けたらといった御意見も前回いただいております。

今後、いただいた提言を基に、都の削減推進計画を策定してまいりますけれども、その中でロードマップ、あるいは、そのスケジュールも検討しながら進めていくといった形になると思いますので、そういった旨を期待するという形に修正をしております。

こちらのほうについては、記載はないんですけれども、前回フードサプライチェーンでの全体の商慣習の見直しにつきまして、提言3で集約しているところがございますけれども、前回事務局側のミスで提言2のところの一部記載がございました。申し訳ございませんでした。こちらにつきましては、今、削除しております。

主な修正箇所は以上になります。

それと最後にスケジュールでございます。資料4のほうを御確認いただければと思います。

11月6日、本日が「食品ロス削減に向けた提言」の決定というところになってございまして、来年1月中旬に都として東京都の食品ロス削減計画を作成しまして、また皆様の御意見をいただきながらパブコメを実施していくという流れになってございます。

3月下旬には「東京都食品ロス削減推進計画」を決定・公表していきたいというふうに考えてございます。

また、令和3年度以降でございますけれども、策定いたしました削減計画とか、また、各業界での食品ロス削減の取組状況について、パートナーシップ会議にて情報を共有していきたいというふうに考えてございます。

駆け足になりましたけど、事務局からの説明は以上でございます。

○渡辺座長 ありがとうございます。一部音声が乱れたかと思いますが、聞き取れない

ほどではないかと思えます。資料もありますので、よろしいでしょうか。

それでは、この本日の提言案について、議論の時間を取りたいと思えます。最終取りまとめに当たって、何か御意見、御質問のある方はお願いいたします。

発言の方法は、冒頭、事務局からお知らせいたしましたように、まずチャットで書き込んでいただいて、発言ありというふうに書いていただくと、私のほうから指名させていただきます。

いかがでしょうか。いつも真っ先に発言してくださる辰巳委員が今日はいないので、どなたか。代わりというわけではありませんが。

小林先生、今日はいらっしゃっていますので、ぜひ副座長として3年間ずっとお付き合いいただいて、最後のこの年はなかなかお会いする機会がなかったのですけれども。

○小林副座長 すみません、御無沙汰しています。

○渡辺座長 御無沙汰しています。いろんな機会にはお会いしていますけど、この会議ではお会いできていない。

○小林副座長 そうですね。お久しぶりという感じもしないんですけども。この場では大変御無沙汰しておりまして、本当にお疲れさまでございました、3年間。

○渡辺座長 いかがですか、全体を通して、3年間ずっと通して、こういった形でまとめができたわけですけども、先生のほうから、今後に向けてこんなこととかというのは、未来志向のお話をいただけるとありがたいなと思えます。

○小林副座長 発言の機会をいただきまして、ありがとうございます。3年間という長い間に、僕はまず形になっただけでもすごいなというくらいのことを、ちょっと思っていて、もちろん突っ込もうと思えば幾らでも突っ込みどころはあるんですけども、3年間の中で法律ができたりとか、企業さんの取組も僕はかなり進んだんじゃないかなという認識をしています。

少なくとも意識としては、かなりこの問題に前向きなマインドがかなりできてきて、要は環境変化がすごかったので、この3年間の間に。結局、情報をアップデートするのが、僕自身の仕事もそうなんですけど、かなり大変になってきて、その駄目押しとして、コロナ問題が発生して、これ最後、本当にどうなるんだろうということ、東京都もこの会議だけじゃなくていろんな報告書を書くとき、かなり御苦労されているんじゃないかと思うんですけども、ちょっと逆のことを考えると、恐らくこの流れ、つまり食品ロス対策というのは、今後、何ていうんでしょう、落ち着くことがあまりなさそうかどうか、特にSDGsの流れもあって、コロナで一番思うのはやっぱり労働マインドとか、働き方改革じゃないんですけども、そういったものがかなり加速していて、特にフードバンクを中心に、ボランティアをやりたいという声はかなり増えているなという印象があるんですね。ただ、その中で高齢者が受け入れられないとか、ちょっと前振りが長くなったんですけども、この提言に僕が何か縛られずにか、常に情報をアップデートするような気持ちで取り組もうねということ、この提言の中でちょっと確認できるような、何かそういうような位置づけ。大まかな形としてはこれでいいのかなと思うんですけども、今後も本当に災害とかも予断を許さない状況、気候変動もかなり深刻なものになってくると思うので、とにかく固定的な、これさえあればいいんだというんじゃなくて、環境変化に応じてどんどん取組をブラッシュアップしていくと、

何かそういうような位置づけでこれを、今の段階の提言ですというようなことで、発表するといいいのかなというふうに思いました。

以上、コメントですが、よろしく申し上げます。

○渡辺座長 ありがとうございます。急に指名しましたけど、大変失礼しました。ありがとうございます。

様々課題になっていた問題を、コロナが一気に加速させるというのか、働き方、暮らし方、全般の変化を求められていく中で、いい方向での変化もあれば、非常に厳しい変化もあればということだと思えるんですけども、そういう不確実性がますます高まる中で、今回の提言については、一旦こういう形でまとめたけれども、これに縛られることなく、随時更新していくべきだというような御意見だったかと思えます。

まさにそのとおりで、最後に資料4で事務局から説明がありましたが、一旦決定し、公表していくということなのではけれども、それで終わりということではなくて、東京都の取組、東京都食品ロス削減推進計画、その他の取組をこの会議体を母体として、フォローアップしていくというようなことも計画されているようですので、そういった中でどんどん更新していく必要があるのかなというふうに、御発言を聞いていて思いました。

ほか、いかがでしょうか。

なかなか発言しづらいかもしれませんが、3年間通じていろいろなことがあったかと思うのですけれども、その感想のようなものでも、もしありましたらということなのですが。

例えば、最後のほうにある、40ページにメンバー表がありますが、3年間ずっとお付き合いいただいたということであると、柿野委員、たまたまちょっと先に目が行ってしまったのですが、いかがでしょうか。

柿野委員、金丸委員、国友委員と、ずっとそうですね、清水委員。

○柿野委員 突然の御指名ありがとうございます。3年たつんだなという、ちょっと感慨深い思いも持ちながら、今お聞きをしておりました。

パートナーシップ会議という、ふだん接することのない方々と、この場でいろいろなお話をさせていただいて、私自身が非常に学びの場であったということで、改めて感謝申し上げたいと思います。

先ほど、小林先生がおっしゃっていたように、変化が激しいこの時代の中にあって、提言というのは、この段階での提言ということになるかと思えますので、常にこの先の変化を見据えながら、新しい食品ロス削減の在り方というのを模索していくということが重要ではないかということ非常に強く感じました。

お世話になりました先生方、ありがとうございました。以上です。

○渡辺座長 ありがとうございます。本当、こういうパートナーシップ会議という形で通常というか、よくある製配販の事業者の方が中心になって集まるとか、消費者の方が中心の集まりとかというのはパターンではなくて、事業者の方と消費者の方、生活者の方が一緒に、一堂に会してということで、今回3年間やらせていただいて、本当にいろいろな発見であるとか、啓発されるところがあったかと思えます。

続きまして、また何か御指名させていただいて申し訳ないのですが、金丸委員も3年

間お付き合いいただいて、どうでしょうか。

○金丸委員 チェーンストア協会代表であり、イオンの金丸と申します。よろしくお願いします。

私も、これまでに事務局からの事前説明を丁寧に行っていますので、改めて意見は特にはないのですが、ここに至るまで、やはり3年という長い時間もありましたし、今御紹介があったように、様々な立場で参加させていただく中で、意見が異なる部分も多かったかと思っておりますので、事務局の取りまとめは大変だったと思っております。座長のリーダーシップもありまして、こういう形で無事提言としてまとまったということについては、感謝を申し上げたいと思っております。ありがとうございました。

あと、私自身はこの3年間の変化の中で、今回コロナのこともあると思っておりますけれども、やはり世の中でみんなが助け合っていくという、あるいはみんなが協力して、よりよい社会をつくっていくという機運は3年前に比べて高まってきていると思っております。そういう中で、やはりこの食品ロス、パートナーシップ会議、このタイトルにあるパートナーシップ、あるいはSDGsの中の最後の17番のパートナーシップと、連携の大切さが、ますます重要になってくると思っております。当然個社でできること、あるいは業界でできることもあるので、それをきちんとやっていかないといけないと思っておりますが、そこにはやはり限界があって、その中で連携、パートナーシップ、が非常に重要になってくる。互いに連携することによって、様々な社会課題が解決できると考えておりますので、この提言の中でも最初の項目が連携という意味で、非常にいい形でまとめていると思っております。

食品ロスに限定しても、つくるところから消費するところまで、様々な立場で連携しながら削減に取り組むということが非常に重要だと思っておりますので、ぜひこれが東京都の具体的な計画の中に落とし込まれるところに、期待もしていますし、そういう意味では連携のまとめ役としての行政、今回の場合では東京都に対する期待も非常に大きく持っています。様々な業界が結びつくときに、国や行政、自治体が動いてくれると、私たち民間が動きやすいということもございます。そういう意味でも、今後にも期待しつつ、この場で皆様方と色々な意見交換や、取りまとめで議論をさせていただいたことにお礼を申し上げて、私のコメントは以上でございます。どうもありがとうございました。

○渡辺座長 ありがとうございます。後半ちょっと一部ネットの接続が不安定になりましたが、最後の部分、おまとめいただいた部分で大体趣旨、皆様に伝わったのではないかと思います。連携していく上での自治体の役割の重要性をしっかりとやってくださいというようなことだと思っておりますので。

○金丸委員 そうですね。これまでやってきたことが具体的に生かせるように、また関係者の連携の旗振り役として、ぜひ頑張ってくださいと思います。よろしくお願いします。

○渡辺座長 ありがとうございます。

それでは、国友委員、いかがですか。

○国友委員 こんにちは。お世話さまです。いろいろと、この会の皆さん方はすごく事業者様がやっぴらっしゃる、先進的にいろいろなことを手がけていらっしゃる企業さんがお集まりになっていて、行政といわゆる企業と消費者の団体の皆様方と、全然関係ない

私のような立場の者がいろいろお話をさせていただく中では、私はどちらかというところ、ぶっ込み隊長的に、普通に考えたらこうなんじゃないですかということ、ずっと言い続けた3年間だったかなと思っていて、そのたびに皆様にお話をさせていただいたことが本当にこのような形でまとまったこと自体、このプロジェクトに参加させていただいた一人としてはとても安堵しておりますし、さっき小林先生もおっしゃっていましたが、よくも悪くも本当にコロナが発生して、この3年間の中での変化はすごい著しく、激しく動いていたかと思っておりますし、特に今年入ってから、すごく状況も変わってきた中では、それにも一応フィットした形での提言書になったのではないかなというふうに思っております。

いろいろぶっ込みし過ぎたかなと反省もしつつ、ありがとうございました。

○渡辺座長 ありがとうございます。国友委員が果たしていただいた役割というのは、本当に大きかったです。議論が沈滞するところで、ぐいっとギアを入れてくださる役割を果たしていただきまして、おかげさまで、まとまるものがまとまったということだと思います。ありがとうございました。

○国友委員 恐れ入ります。ありがとうございます。

○渡辺座長 それでは、清水きよみ委員もずっとお付き合いいただいたかと思うのですが、いかがでしょうか。

○清水きよみ委員 聞こえますでしょうか。聞こえますか。

○渡辺座長 はい、ちょっと声が小さいです。

○清水きよみ委員 聞こえますか。大丈夫ですかね。

○渡辺座長 はい。

○清水きよみ委員 いろんな立場の人たちが集まって、3年にわたり議論を重ねてきたということで、本当に勉強になりました。ありがとうございます。

私自身、3年前は消費者関連専門家会議という、消費者と事業者をつなげる事業者団体という立場だったのが、仕事が変わりまして、今は産官学民のプラットフォーム的な公益財団法人にいますが、どちらも持続可能な社会をつくっていくというめざす方向は同じですので、毎回の会合がとても勉強になりました。ありがとうございました。

東京都の方も担当がかわられ、後から来てまとめた方も大変だったと思いますけれども、ありがとうございます。

最初からの委員としては、第1回の会合のときに、小池都知事が、食品ロス削減を東京モデルとして世界に向けて発信していくので、委員の皆さんよろしくとおっしゃったのが、物すごく印象に残っています。昨年12月策定の脱炭素社会に向けた「ゼロエミッション東京戦略」で、まさにそういうふうに行われていると思いますけれども、食品ロスの議論も一緒に入っておりますので、引き続きもっとインパクトのあるような打ち出し方をしていっていただけたらと思います。

報告書の内容で一点だけ、資料2の概要版についてです。前にいただいたものに比べると、随分内容がすっきりして、ページも減っています。私が拝見したところ、短くまとまって、見やすくなっているという気もしますが、見方によると、例えば各主体別のところがいろいろ書き込みしてあったのが、すごくまとまって、例えば提言2などは、半ページ分くらいあったのが数行になっています。ここまで省略すると、言いたいこと

が伝わらないと思う方もいらっしゃるかもしれません。また、何十ページもある報告書本体よりも、概要版で何が書いてあるのか見る人が多いと思いますので、読む人にもきちんと伝わるのか、気になりました。それぞれのお立場で大丈夫そうとか、こんなにはしよったら伝わらなくなるという心配がなければ、コンパクトでよいとは思いますが。

最後までいろいろ、いつも注文をつけておりましたけれども、本当にありがとうございました。

- 渡辺座長 ありがとうございます。清水委員もいつも辛口のコメントをいただいて、本当に会議自体が引き締まってきたかと思えます。いつもしっかりしなさいよという感じで言われているのを感じつつ、進行しておりました。

概要版についてなんですけれども、後ほど事務局から説明いただきますが、もしかしたらA4、1枚に収めるというのも何かあったのかなと思うのですけれども、説明を、じゃあ、お願いします。

- 宗野計画担当部長 じゃあ、私のほうから。本日はまとめていただいた後、こういう提言をいただいたということを東京都のほうから、今日若干修正があれば修正をして、週明けの月曜日に報道のほうに、いわゆるプレスをしようと思っています。

そういったときに、通常、何枚にもわたっていると、やっぱりそれはそれでちょっとボリューム感があり過ぎて、要するに何なのみたいな話になるということで、コンパクトに1枚にまとめるのが通例であります。ということで、この1枚に清水委員がおっしゃったとおり、ちょっとはしより過ぎだったかもしれませんが、1枚に収めたということであります。

提言の2のところは、本文で言いますと、方向性のところは18ページから、18、19、20と3枚にわたっている比較的ボリュームの大きいところなんですけれども、そのサプライチェーン全体に関わることのうち、抜粋して、そこをまとめたような形になっておりまして、5番目まで飼料化、肥料化のリサイクルというところまでがサプライチェーン全体に関わる話でありまして、その後、各段階ということで、製造、卸、販売、フードバンクというような形になっておりまして、その部分は各段階のことなので、ちょっと省略させていただいたという形になっております。

今日、ほかの先生方のほうで、特に各段階のところ、製造、卸、販売のところ、ここはやっぱり入れたがほうがいいみたいな話があれば別なんですけれども、例えば製造のところは包装技術とか冷凍技術とか需要予測ということなので、内容的にはフォローされていると思います。あと卸のところも在庫のお話ですので、そこも触れた形にはなっているかなと思います。

一つ、内容的にちょっと違うのは10番目のフードバンクの活用というところが、違いますので、その部分であれば、若干詰めれば入るかなと思いますので、そういうものを入れる形でまとめてはいかがかなと思いますけれども、特に異論がなければ、ぎゅう詰めにすれば、その部分は入ると思いますので、そういった形で修正をかけさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

- 渡辺座長 というような、A4、1枚に収めるということが、まずプレス用ということで考えられていて、それ以外にこういうものが、提言が出されたというようなことを、さらに説明するようなものをまた今後つくっていただいて、広く配布するような機会が

あればいいのかなとは思いますが。

今の修正部分については、ちょっと文案などをつくっていただいて、最後にまた確認したいと思います。ありがとうございます。

それでは、続きまして、関口委員ですね。ここで委員としては男性が初めて出てくる。小林先生には発言いただきましたけど。

関口委員、お願いします。

○関口委員 委員の皆さん、お疲れさまでした。私は初めから参加させていただいたんですが……。

○渡辺座長 ちょっと聞き取りづらいのですが。

○関口委員 前回もお話しさせていただいた、まず何をやるのかというような目的、目標がしっかりと書かれていて、あと東京都の目標の具体的な数字というのも、今回入っているんで、非常に分かりやすくなったと思います。また、いろいろな立場、先ほど皆様のおっしゃっていたようなつくる側、売る側、使う側、行政といったような形で、いろいろな角度から一つの事を見ていて、それぞれ意見が立場によって違うということも分かりましたし、それぞれの取組というのも分かって、非常に今後の事業活動の中でも参考にできる意見を多々勉強させていただきました。ありがとうございます。

○渡辺座長 ありがとうございます。それぞれ立場は当然違っているわけで、それをお互いぶつけ合いながら、この3年間まとめてきたということで、それが今回の成果なのかなど。完全に一致するということとはなかなかできることではないと思いますので、違うことで、それぞれがそれぞれの立場でまた取組を続けていくということが大事なのかなというふうにお話を伺っていて思いました。ありがとうございます。

それでは、41ページにいきますと、福井委員ですね。福井委員、いらっしゃいますか。前回途中で退席されてしまったかと思うのですが。

○福井委員 福井です。ありがとうございます。聞こえますでしょうか。

○渡辺座長 聞こえます。

○福井委員 内容につきましては、東京都様のほうからも丁寧に事前に御説明いただいたので、何か意見を申し上げることは特にございません。本当に事務局としての御苦労があったかと思っておりますけれども、ありがとうございます、感謝申し上げます。

それと、特にこの全体の中で19ページ目に食品リサイクルループ化に取り組む、みんなで発生抑制するんだけど、どうしても出てしまうものも当然ゼロにはならないわけで、その中で食品リサイクルループ化に取り組むというところもしっかり明記いただきましたので、なお一層、我々も事業者として頑張っていきたいなというふうに思っております。

以上です。

○渡辺座長 ありがとうございます。食品リサイクルループについて書き加えられたということを確認させていただいて、ぜひ、さらに業界としてお進めいただくといいのかなと思います。ありがとうございます。

それでは、次は藤田委員です。会場に藤田委員、いらっしゃっていますが、カメラをONにして、操作をお願いします。

○藤田委員 藤田でございます。最初からずっと参加させていただいて、提言については

意見はありませんので、これもみんな座長さんがうまくまとめてくださったおかげと感謝しております。

一般の消費者として、私はこの会に参加したわけなんですけども、この会議に出て、いろいろ何ていうんですか、自分の立場が変わったというか、考え方が変わって、いつも買物に行くときはマイバッグを持って行きますし、冷蔵庫の中身を確認してから行きますし、買い過ぎない、それからつくり過ぎない、残さない、そういうのを心がけております。

葛飾区では消費者団体連合会が結構活躍していて、私もその一員でやっているんですけども、区のほかの行事、みんな中止になった中で、消費生活展を10月3日に一日だけですけれども、できたということは、本当によかったなと思っております。

何ていうんですか、今までは生産者の方の御苦勞というのは思っていたんですけども、そこに卸売業者とか、小売業者の方、皆さんいろんな御苦勞なことをなさっているんだなと思って、皆さんのおかげでおいしく御飯が頂けているんだなと感謝しております。ありがとうございました。

○渡辺座長 藤田委員、ありがとうございます。

あと、ずっと3年間続けていただいたという意味では三田委員、山田委員、共にそうですねですけれども、お二人とも今日は御欠席になってしまいまして、両委員には3年間非常に、要所要所で御発言いただいたことは、この場で御礼申し上げたいと思います。

それでは、先に3年続けていらっしゃった委員の方を御指名させていただきましたけれども、ここからまだ多少時間がありますので、今発言をされなかった委員の方から、何かございますか。

もしチャットでというのが、なかなかすぐに難しければ発言ありますと、発声いただいてもよろしいかと思うのですけれども。

○花澤委員 それでは、国分の花澤です。

○渡辺座長 お願いいたします。

○花澤委員 よろしいでしょうか。事務局の皆様には大変な時間をかけて討議した膨大な意見を取りまとめていただきまして、本当にありがとうございます。

日本加工食品卸協会として、三菱食品様と当社が参加しているんですけども、前任の者から引き継いで、第6回目以降は花澤が参加しています。

その中で、やはり当時と比べて、社会全体の意識、それから会社の意識も大分変わってきました。当社もSDGsステートメントを今年の9月に発表して、六つの重要事項を設定しました。重要事項を、サプライチェーンの項目の中では、基本方針を環境とエネルギー削減に配慮したサプライチェーンの構築として、達成目標の中でもサプライチェーン全体での脱炭素化と廃棄物削減の取組を盛り込みました。特に食品ロス、それから食品以外にも廃棄物削減を目指したんですけれども、KPIの設定は、ここの提言の中にも盛り込まれている2030年までに食品廃棄物量を50%というように設定しています。

この当社のSDGsステートメント策定においても、この会議の参加はとても参考になりましたし、特にマテリアリティの設定、KPIの設定では、参考にさせていただきましたし、やっぱりその数字を入れたときの後押しになるとも考えています。

また、本会の参加メンバーの皆様とのつながりの中では、この会議以外でも様々な協働ワークができる状況になった点も、とてもよかったと思っています。

以上です。

- 渡辺座長 ありがとうございます。ぜひ、こういう会をきっかけにして、会議以外でも様々、縦横のつながりというのができてくるといいのかなと。行政が主催するパートナーシップ会議をベースにしながら、それが民民のつながりが広がっていくというのは、素晴らしいことなのかなと思います。ありがとうございました。

ほかいかがですか。まだ数名の方、発言できると。あと10分くらいは、取ろうと思えば時間が取れるのですけれども。

よろしいですか。逆に最近加わられた方というのもいらっしゃるんですけど。

よろしいですか。それぞれお立場があるので、無理に御指名しても、なかなか発言しづらいかとも思いますので。

それでは、よろしいでしょうか。

先ほどの概要版のところについて、どうするかということ事務局から説明していただけますか。

- 宗野計画担当部長 事務局といたしましては、先ほど若干お話しいたしましたけども、提言の2のところは、幾つか、たくさんの項目が並んでおりますけれども、よろしければ20ページのところのフードバンクの活用のところを、タイトル10番のフードバンクの積極的な活用と、それを加えまして、その下に1行ですけれども、五、六行にわたっているところの一番最後のところですけど、フードバンク等を積極的に活用し、未利用食品の有効活用を図るべきであるというところを、言葉として入れさせていただきたいと思います。

今、色を塗っていますけれども、そのフードバンクのその上のところからです。そうです。「徹底して」という言葉が何かちょっと浮いているかもしれませんが、ちょっとそこは外した形で、積極的に活用して、未利用食品の有効活用を図るべきであると。そういう言葉で、タイトルと1行を加える形でいかがかと思っておりますけれども、どうでしょうか。

- 渡辺座長 いかがですか。フードバンクの積極的な活用として、フードバンクを積極的に活用して、「徹底して」を除いて、未利用食品の有効活用を図るべきであると。

- 田中委員 じゃあ、いいでしょうか。江崎グリコの田中です。どうも皆様お疲れさまです。

今、フードバンクの積極的活用というところで、徹底してという文言のところなんですけれども、このフードバンク、今回まとめていただいた資料の中で、いろいろな主体が出てきますけれども、農家とか、一次産業をやっておられる方が東京都内でも多くいらっしゃると思います。農家の方々が規格外の作物とかを結構処分、捨てているんですね。全国では年間193万トン、生産しても出荷されていない野菜があるというふうに農林水産省の野菜の作付面積、収穫量及び出荷量というデータから数字が出ております。

この徹底してというところを削除するのもいいアイデアだと思いますし、あるいはこのフードバンクなどの未使用製品、未利用食品を有効に使うことができる手段として、フードバンクというのがありますよというような情報提供も徹底して、より全体の未利

用食品の有効活用を図るべきであるというふうになると、いろいろな意味が包含されてきて、「徹底して」も削除されなくて、いいかなというふうに思ったので、ちょっと意見をさせていただきました。

ちょっと、その資料の手直しとか、いろいろな全体の整合性とか、ここに農家の話が来るとややこしくなるとかというのであれば、度外視していただいて構わないと思います。

○渡辺座長 ありがとうございます。

○宗野計画担当部長 田中委員、ありがとうございます。

野菜を生産していて、それが廃棄されているということ、これは田中委員、御指摘のとおりでありまして、コロナ禍でもそのことが浮かび上がって、報道もかなりされていた、食ロスというものが発生しているんだということが広く報道で認識された方もいると思います。その未利用食品というところが、いろいろから出ているという意味合いをもう少し持たせるというか、様々な段階で、一次産業みたいなところからも出てくるでしょうし、工場で生産してくるところからも出てきたり、様々な段階で未利用食品は出てきますので、ちょっと分かりづらいかもしれませんが、様々な段階で出てくる、排出されるという意味合いで、ちょっと1行には収めたいものですから、様々なという形で、それは何ですかと言われたときには、田中委員が指摘いただいたように、そういう野菜みたいなものも当然入っていますよと、それは相当な量なのでということも、対外的には説明させていただきたいというふうに思います。いかがですか。

○田中委員 はい、もちろん。ありがとうございます。

○宗野計画担当部長 よろしいですか。すみません。ありがとうございます。

○渡辺座長 ありがとうございます。それでは、概要版のところにフードバンクの積極的な活用の項目を入れて、この文章を付け加えて、本文のほうの「徹底して」を「様々な」に変えるということによろしいでしょうか。

○渡辺座長 それでは、以上……。

○清水きよみ委員 すみません、清水です。今のところですけれども、サプライチェーン全体についての提案部分なので、フードバンクというよりは、リサイクルの推進、飼料化、肥料化とか、そういうのも記載があったのが全部ここでなくなっているので、未利用のものをリサイクルしたり、フードバンクにまわしたり、いろいろな方法で有効活用するとしたほうがよくないでしょうか。フードバンクだけを強調したほうがいいのか、ちょっと分からないのですけれども。前の提言では10個くらい書いてあった中のうちの、3個に残るものにフードバンクだけ強調していいのかというか。

○渡辺座長 概要版のほうですよ。

○清水きよみ委員 そうです。前回の概要と見比べているのですが、サプライチェーン全体のところから、先進技術の導入と創意工夫の二つを取って記載していますよね。三つ目としてフードバンクだけを加えてしまっているのかと。それよりは、発生抑制を最大限にした上での飼料化とか肥料化とかフードバンクとか、いろんな方法で努力するという書き方。創意工夫による取組の促進と似てしまうのかもしれないですけどね。フードバンクだけピックアップして、3番目に来るのは少し違和感があるということです。

○渡辺座長 事務局としては、フードバンクに触れている箇所がほかにもないということも

あつてということですかね。

○宗野計画担当部長 そうですね。

○清水きよみ委員 提言8に入っていますよね。

○渡辺座長 防災備蓄食品ですよ。

○宗野計画担当部長 清水先生、ありがとうございます。フードバンクのところは、提言8に入っているんですけども、行政のほう为中心にどうやって動いていくのかって、民間への働きかけというものも含まれていますけれども、基本的には自身で防災備蓄品なんかを持っていますので、そういうものの再利用とか、そっちのトーンで書いていますので、民間自身がフードバンクの活用をきちんとやろうということは、改めて言う意義というものはあるんじゃないかなと思います。

あと、先ほどの繰り返しになりますけれども、内容、どれも先生方に3年もかけて議論いただいたものですから、なかなか、どれをというのは難しいんですけども、あえて言うと、先ほど言ったように製造のところの包装技術とか、卸のところの在庫とかというのは、ほかでも少し読めるような形になっていると思いますので、清水委員がおっしゃっていただいたところで、ちょっと色合いが違うものというので、フードバンクと申しあげましたけれども、もう一つというのであれば、肥料化のところなんか、そういうところまで目配りしているというか、福井委員のほうにもこういう観点を追加したことは意義があるというふうなお話もありましたので、ここの部分を少し短い言葉で、そういうことも目指していくべきだ、みたいなことを加えるのであれば、清水委員がおっしゃるような形でいろんなものを、あまり抽象的になってしまうと、何を指しているか分からなくなるかなというふうに思いますので、加えるのであれば、飼料、肥料のリサイクルみたいな話というのは、ちょっとほかでは言っていない部分なので、そこをごく簡単に言うのかな、みたいな形ですけども、かなりぎゅうぎゅうになっちゃいますので、どうしようかなという感じですけども。

座長のほうから見て、バランス的に。飼料、肥料のリサイクルというところが、この概要のところには挙がってくるというところが割と何ていうか、ボーダーというか、挙げておかないと絶対まずいという内容ではないような気はするんですけども。

○渡辺座長 食品ロス削減促進法でもフードバンクはかなり強調して、まあ、フードバンク等の活用ということは書かれていますから、そこは入れて、飼料、飼料リサイクルも本当に大事な問題ではあるのですけれども、そこまでここに入れなくてもいいのかなという気は。本文にしっかり書かれているわけですから、いいのかなと思うのですけれども、あくまでも、これは本当に概要版としてプレスに配るもので、さらにより広く伝えていくために、よくパワーポイント形式とかスライドみたいなのが、ホームページなんかには貼り出されたりしますよね。そういう中で、本編と概要版の中間くらいの、もうちょっと詳しいものが提示されたりするといいいのかなと思うのですけれども、そういうことを…。

○清水きよみ委員 分かりました。すみませんでした。

○渡辺座長 いえいえ。そういうことで進めていただけるといいのかなと思うのですけれども。

○清水きよみ委員 「等」と入れていただいたら、いいのかもしれないです。フードバン

ク等と、タイトルのところで。

- 渡辺座長 本文のほうには入っていますから、あれですね、上に入れると。
- 宗野計画担当部長 清水委員のほう、本文のほうに「フードバンク等」と書いてありますけど、そこを……。
- 渡辺座長 見出しのほうです。
- 宗野計画担当部長 タイトルのほうですか。
- 清水きよみ委員 概要版のところにフードバンク等の活用と入れたらどうですか。
- 渡辺座長 本文の見出しにも「等」を入れて、必然的に概要版にも「等」が入ると。
- 宗野計画担当部長 じゃあ、フードバンクの活用というタイトルに「等」ということ。
- 渡辺座長 「フードバンク等の積極的な活用」というふうにして、フードバンク等の活用、これは何か重なっていますが、フードバンク限定というよりも、様々な福祉団体があるわけで、その背後にいろいろあるものを包含してということでもいいと思うんですけども。

この提言書の内容をもうちょっと1枚のプレス用の紙以外の、もうちょっと詳しい内容、この中間的なものをぜひつくっていただいて、広く伝えられるような形にさせていただくといいのかなと思うのですが、そういうようなものは、つくれるんじゃないかなと、都の皆さんの力であれば。

- 宗野計画担当部長 ありがとうございます。一応、繰り返しになりますけれども、プレスは週明けに一応させていただく予定にしています。フードバンクのところは概要版に加えさせた形にしたいと思います。

あと、冒頭にもスケジュールを申し上げましたけれども、これを踏まえまして、計画のほうの作り込みに切り替えて、年明けにはまた委員の皆様にご意見をいただきたいということで、その中に、しっかり盛り込むような形で見せていきたいと。また、そのときにも対外的に示すようなタイミングがありますから、今日いただいた意見を踏まえまして、計画のほうをきちんとつくって、対外的にまた示していくということでさせていただきますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

- 渡辺座長 では、以上の修文を加えたものを最終的な東京都食品ロス削減パートナーシップ会議による「食品ロス削減に向けた提言」というふうにまとめさせていただきます。そのまとめたものを東京都へ提出するというのを、この場でさせていただこうかと思えます。

(提言の手交)

- 渡辺座長 ありがとうございます。リモートでこんなことをやるのは初めてです。それでは、最後に栗岡局長に御挨拶をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。
- 栗岡環境局長 環境局長の栗岡でございます。

ただいま渡辺座長から提言をいただきました。委員の皆様方には、2017年9月に本パートナーシップ会議を設置以来、10回にわたる会議において様々な角度から精力的に御議論いただいております。

今日も先ほど委員の先生方からもお話がございましたけれども、様々な御議論や、途中でかなり激論もあったというふうに伺っていますけれども、3年という大変長い間、

本当にありがとうございました。心より御礼申し上げたいと存じます。

食品ロス、言うまでもありませんが、生産から消費に至る様々な段階が関連して発生しておりまして、その削減に当たっては、事業者、消費者が相互に理解の上、共通の問題意識を持って対応していくことが何より重要です。

こうした点から、このパートナーシップ会議で、生産、卸、小売、外食、消費者を代表する皆様方が一堂に会して議論を深め、食品ロス削減に向けた提言を取りまとめたことには大変大きな意義があったというふうに考えてございます。

振り返ってみますと、この間、食品ロスに関して様々な動きがございました。

当初、当会議で策定を予定していた「東京方式」、先ほど「東京モデル」というお話もございましたけれども、独自の行動プランについては、昨年10月に食品ロス削減推進法が施行となったことを踏まえまして、いただいた提言を基に、法に基づく削減推進計画を都が策定することといたしました。

昨年12月には、都は、CO₂排出実質ゼロを目指すゼロエミッション東京戦略に食品ロス対策を位置づけまして、2030年の食品ロス半減のみならず、2050年までに実質ゼロという意欲的な目標を掲げて、その達成に向けて動き始めてございます。

そして、今年、新型コロナウイルスの感染拡大もございまして、食品ロスに関わる状況の変化として、サプライチェーンへの影響、安全・安心志向の高まりや、社会貢献意識の高まりといった観点からも、非常に丁寧な御議論を深めていらっしゃるというふうに伺ってございます。

こうして本日取りまとめたいただきました御提言では、先進技術の活用から、優良な取組事例の展開、困った方々への食を通じた支援など、食品ロスの削減に有効な取組の方向性が様々示されてございます。

いただいた御提言を踏まえまして、今後、都は、各主体が、主体性と連携を基に着実に取組を進められますよう、食品ロス削減推進計画を今年度中を目途に策定してまいります。

先ほど委員の皆様方からも、これにとらわれることなく絶えずアップデートすることですとか、あと連携を深めていくというような御指摘をいただいておりますので、そういったことも含めて、しっかりやっていきたいと考えてございます。

目標の達成に向けては、言うまでもありませんけれども、行政だけではなく、事業者、消費者など各主体が一丸となって取り組んでいくことが重要です。

委員の皆様方には、引き続き、東京都の食品ロス対策に御指導を賜りますよう、改めてお願い申し上げたいと存じます。

今日は本当に、誠にありがとうございました。

○渡辺座長 栗岡局長、ありがとうございます。

それでは最後、事務局から何かございますか。大丈夫ですか。

それでは、本当に長い間、3年間という形で会議を繰り返して、第10回ということになりましたが、ようやく提言という形でまとめることができました。皆様方の御協力のおかげだと思っております。最後の本日も、いろんなところで議論が白熱しまして、どうなるかと思いましたが、何とかまとめることができました。

この会議自体、委員の皆様はまた交代されたりもするかもしれませんが、今後

の東京都の推進計画をまとめた後のフォローアップなどにおいても、パートナーシップ会議という形で第三者委員会みたいな、そんな堅苦しいものではないと思うのですけれども、フォローアップして行って、行政とともに、よりよいものをつくっていくという、そんな関係が継続できればと思っておりますので、引き続き、どうかよろしく願いいたします。

それでは、本日は皆様、ありがとうございました。失礼いたします。

(午後 3時22分 閉会)